

表5:職種

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
医師	1 4.2%	18 94.7%	5 4.6%			24 7.2%
歯科医師		1 5.3%	2 1.9%			3 .9%
獣医師	1 4.2%		1 .9%	54 47.0%	15 21.7%	71 21.2%
薬剤師	1 4.2%		1 .9%	33 28.7%	16 23.2%	51 15.2%
保健師	13 54.2%		72 66.7%			85 25.4%
助産師	3 12.5%					3 .9%
(管理)栄養士	2 8.3%		24 22.2%			26 7.8%
環境衛生監視員	2 8.3%				7 10.1%	9 2.7%
食品衛生監視員	1 4.2%			13 11.3%		14 4.2%
放射線技師				14 12.2%		14 4.2%
臨床検査技師					12 17.4%	12 3.6%
事務職			2 1.9%			2 .6%
その他			1 .9%	1 .9%	19 27.5%	21 6.3%
合計	24 100.0%	19 100.0%	108 100.0%	115 100.0%	69 100.0%	335 100.0%

表6:性別

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
男性	3 12.0%	18 94.7%	7 6.4%	87 75.7%	48 67.6%	163 48.1%
女性	22 88.0%	1 5.3%	102 93.6%	28 24.3%	23 32.4%	176 51.9%
合計	25 100.0%	19 100.0%	109 100.0%	115 100.0%	71 100.0%	339 100.0%

表7: 学歴(複数回答)

	修了者				
	長期	分割	対人	監視	環境
専門学校	13 52.0%		64 58.7%	10 8.7%	7 9.7%
短期大学	6 24.0%		21 19.3%	3 2.6%	5 6.9%
4年制大学	9 36.0%		20 18.3%	56 48.7%	36 50.0%
6年制大学	1 4.0%	15 78.9%	7 6.4%	23 20.0%	13 18.1%
大学院修士課程	3 12.0%	1 5.3%	4 3.7%	25 21.7%	13 18.1%
大学院博士課程	2 8.0%	2 10.5%	1 .9%	2 1.7%	
国立公衆衛生院専攻課程	18 72.0%			1 .9%	1 1.4%
国立公衆衛生院専門課程	2 8.0%	3 15.8%			

表8: 研修認知

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
知っていた	24 96.0%	12 70.6%	106 98.1%	107 94.7%	64 91.4%	313 94.0%
知らなかった	1 4.0%	5 29.4%	2 1.9%	6 5.3%	6 8.6%	20 6.0%
合計	25 100.0%	17 100.0%	108 100.0%	113 100.0%	70 100.0%	333 100.0%

表9: 知っていた理由(複数回答)

	修了者				
	長期	分割	対人	監視	環境
受講経験者から聞いた	14 58.3%	3 25.0%	76 71.7%	86 80.4%	45 70.3%
研修派遣担当者から聞いた	3 12.5%	3 25.0%	42 39.6%	23 21.5%	3 4.7%
上司から聞いた	12 50.0%	7 58.3%	47 44.3%	56 52.3%	34 53.1%
公衆衛生院の職員から聞いた		1 8.3%	5 4.7%	1 .9%	
学校の先生から聞いた	5 20.8%		2 1.9%		1 1.6%
入学案内を見た	1 4.2%	2 16.7%	49 46.2%	26 24.3%	17 26.6%
ホームページで見た	1 4.2%	2 16.7%	7 6.6%	2 1.9%	2 3.1%
雑誌で読んだ		1 8.3%	1 .9%		
学会で知った		1 8.3%	1 .9%		
その他	2 8.3%	1 8.3%	2 1.9%	5 4.7%	

表10:受講しやすい研修の形態

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
科学院	6 24.0%	6 46.2%	25 26.0%	48 46.2%	27 44.3%	112 37.5%
出張研修	10 40.0%	2 15.4%	45 46.9%	39 37.5%	23 37.7%	119 39.8%
通信教育	1 4.0%		10 10.4%	4 3.8%	2 3.3%	17 5.7%
遠隔教育	8 32.0%	5 38.5%	14 14.6%	12 11.5%	9 14.8%	48 16.1%
その他			2 2.1%	1 1.0%		3 1.0%
合計	25 100.0%	13 100.0%	96 100.0%	104 100.0%	61 100.0%	299 100.0%

表11:希望する研修の形態

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
科学院	10 40.0%	10 71.4%	53 51.5%	75 67.0%	40 58.0%	188 58.2%
出張研修	6 24.0%		37 35.9%	26 23.2%	18 26.1%	87 26.9%
通信教育	1 4.0%		3 2.9%	3 2.7%	4 5.8%	11 3.4%
遠隔教育	8 32.0%	4 28.6%	10 9.7%	8 7.1%	7 10.1%	37 11.5%
合計	25 100.0%	14 100.0%	103 100.0%	112 100.0%	69 100.0%	323 100.0%

表12:職場の都合上、受講しやすい研修期間

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
1週間未満	14 56.0%	7 43.8%	56 51.9%	42 37.2%	22 31.4%	141 42.5%
1-2週間	7 28.0%	6 37.5%	33 30.6%	33 29.2%	29 41.4%	108 32.5%
2-4週間	4 16.0%	2 12.5%	17 15.7%	29 25.7%	12 17.1%	64 19.3%
1-2ヶ月		1 6.3%	2 1.9%	9 8.0%	6 8.6%	18 5.4%
2-6ヶ月					1 1.4%	1 .3%
合計	25 100.0%	16 100.0%	108 100.0%	113 100.0%	70 100.0%	332 100.0%

表14: 家庭の都合を考慮した上での自分の希望する研修期間

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
1週間未満	5 20.0%	4 26.7%	34 31.8%	24 21.2%	11 15.7%	78 23.6%
1-2週間	6 24.0%	2 13.3%	28 26.2%	32 28.3%	23 32.9%	91 27.6%
2-4週間	5 20.0%	3 20.0%	29 27.1%	27 23.9%	19 27.1%	83 25.2%
1-2ヶ月	2 8.0%	3 20.0%	7 6.5%	22 19.5%	10 14.3%	44 13.3%
2-6ヶ月		1 6.7%	2 1.9%	3 2.7%	3 4.3%	9 2.7%
0.5-1年	2 8.0%	2 13.3%	3 2.8%			7 2.1%
1年以上	5 20.0%		4 3.7%	5 4.4%	4 5.7%	18 5.5%
合計	25 100.0%	15 100.0%	107 100.0%	113 100.0%	70 100.0%	330 100.0%

表15: 地方自治体の研修の数

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
十分	2 8.3%	1 6.3%	4 3.7%	3 2.7%	1 1.4%	11 3.4%
ほぼ十分	10 41.7%	6 37.5%	41 38.3%	29 26.4%	19 27.5%	105 32.2%
やや不十分	10 41.7%	6 37.5%	48 44.9%	44 40.0%	31 44.9%	139 42.6%
不十分	2 8.3%	3 18.8%	14 13.1%	34 30.9%	18 26.1%	71 21.8%
合計	24 100.0%	16 100.0%	107 100.0%	110 100.0%	69 100.0%	326 100.0%

表16: 職場の都合を考慮した上での自分の希望する研修期間

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
1週間未満	9 36.0%	6 37.5%	41 38.0%	25 22.3%	10 14.3%	91 27.5%
1-2週間	7 28.0%	1 6.3%	36 33.3%	28 25.0%	25 35.7%	97 29.3%
2-4週間	5 20.0%	8 50.0%	19 17.6%	29 25.9%	15 21.4%	76 23.0%
1-2ヶ月	2 8.0%		7 6.5%	23 20.5%	13 18.6%	45 13.6%
2-6ヶ月			1 .9%	3 2.7%	3 4.3%	7 2.1%
0.5-1年	1 4.0%	1 6.3%	2 1.9%	1 .9%		5 1.5%
1年以上	1 4.0%		2 1.9%	3 2.7%	4 5.7%	10 3.0%
合計	25 100.0%	16 100.0%	108 100.0%	112 100.0%	70 100.0%	331 100.0%

表17: 地方自治体が行う研修の受講機会

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
十分	2 8.3%	1 6.3%	1 .9%	2 1.8%	1 1.4%	7 2.2%
ほぼ十分	7 29.2%	6 37.5%	25 23.4%	19 17.4%	18 26.1%	75 23.1%
やや不十分	10 41.7%	5 31.3%	57 53.3%	50 45.9%	26 37.7%	148 45.5%
不十分	5 20.8%	4 25.0%	24 22.4%	38 34.9%	24 34.8%	95 29.2%
合計	24 100.0%	16 100.0%	107 100.0%	109 100.0%	69 100.0%	325 100.0%

表18: 地方自治体の研修内容

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
十分	2 8.3%			6 5.5%	1 1.4%	9 2.8%
ほぼ十分	11 45.8%	5 31.3%	25 23.8%	28 25.7%	21 30.4%	90 27.9%
やや不十分	9 37.5%	7 43.8%	59 56.2%	40 36.7%	30 43.5%	145 44.9%
不十分	2 8.3%	4 25.0%	21 20.0%	35 32.1%	17 24.6%	79 24.5%
合計	24 100.0%	16 100.0%	105 100.0%	109 100.0%	69 100.0%	323 100.0%

表19: 地方自治体での研修の満足度

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
十分	3 12.5%	1 5.9%	9 8.8%	9 8.3%	4 6.1%	26 8.2%
自治体充実	2 8.3%	5 29.4%	20 19.6%	16 14.7%	11 16.7%	54 17.0%
国で学びたい	3 12.5%	5 29.4%	21 20.6%	28 25.7%	15 22.7%	72 22.6%
両方受けたい	16 66.7%	6 35.3%	52 51.0%	56 51.4%	36 54.5%	166 52.2%
合計	24 100.0%	17 100.0%	102 100.0%	109 100.0%	66 100.0%	318 100.0%

表20: 受講の際に障害となるもの(複数回答)

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
自宅からの距離	17 68.0%	11 57.9%	67 61.5%	40 34.8%	34 47.2%	169 49.7%
期間	13 52.0%	9 47.4%	41 37.6%	45 39.1%	21 29.2%	129 37.9%
内容が合わない	2 8.0%	2 10.5%	4 3.7%	2 1.7%	5 6.9%	15 4.4%
職場の理解のなさ	4 16.0%		8 7.3%	1 .9%	4 5.6%	17 5.0%
職場の人手不足	15 60.0%	13 68.4%	78 71.6%	76 66.1%	42 58.3%	224 65.9%
家庭	5 20.0%	1 5.3%	24 22.0%	22 19.1%	11 15.3%	63 18.5%
その他	3 12.0%	2 10.5%	10 9.2%	9 7.8%	7 9.7%	31 9.1%

表21: 研修で得たいもの

	修了者				
	長期	分割	対人	監視	環境
現場でそく活用できる知識や技術	19 76.0%	13 68.4%	77 70.6%	102 88.7%	64 88.9%
他職種と共に学ぶ機会	14 56.0%	2 10.5%	41 37.6%	19 16.5%	12 16.7%
厚生行政の最新情報	14 56.0%	10 52.6%	77 70.6%	72 62.6%	34 47.2%
受講生間の情報交換ネットワークづくり	10 40.0%	7 36.8%	75 68.8%	87 75.7%	55 76.4%
論文のまとめ方	13 52.0%	7 36.8%	29 26.6%	8 7.0%	5 6.9%
フィールド実習	7 28.0%	1 5.3%	15 13.8%	41 35.7%	13 18.1%
最先端で活躍している講師の講義	12 48.0%	8 42.1%	52 47.7%	43 37.4%	21 29.2%
その他	3 12.0%	4 21.1%	2 1.8%	2 1.7%	

表22: 研修で身につけたい技術(複数回答)

	修了者				
	長期	分割	対人	監視	環境
地域アセスメント/分析	11 44.0%	13 68.4%	75 68.8%	39 33.9%	24 33.3%
活動・事業計画	6 24.0%	9 47.4%	48 44.0%	25 21.7%	12 16.7%
評価	11 44.0%	11 57.9%	83 76.1%	42 36.5%	13 18.1%
スーパービジョン/監査	5 20.0%	2 10.5%	41 37.6%	29 25.2%	2 2.8%
コミュニケーション	12 48.0%	6 31.6%	43 39.4%	47 40.9%	11 15.3%
地域社会開発	9 36.0%	7 36.8%	67 61.5%	17 14.8%	10 13.9%
調査研究方法	20 80.0%	6 31.6%	54 49.5%	54 47.0%	44 61.1%
人材育成	9 36.0%	9 47.4%	35 32.1%	18 15.7%	7 9.7%
政策開発	8 32.0%	9 47.4%	59 54.1%	23 20.0%	10 13.9%
地域管理	4 16.0%	7 36.8%	21 19.3%	7 6.1%	3 4.2%
財政計画	5 20.0%	3 15.8%	30 27.5%	2 1.7%	4 5.6%
その他				6 5.2%	3 4.2%

表23: 年齢階級

	修了者					合計
	長期	分割	対人	監視	環境	
20歳代	5 20.0%	1 5.3%	3 2.8%	3 2.6%	9 12.7%	21 6.2%
30歳代	12 48.0%	1 5.3%	28 25.7%	51 44.3%	42 59.2%	134 39.5%
40歳代	7 28.0%	8 42.1%	47 43.1%	55 47.8%	15 21.1%	132 38.9%
50歳以上	1 4.0%	9 47.4%	31 28.4%	6 5.2%	5 7.0%	52 15.3%
合計	25 100.0%	19 100.0%	109 100.0%	115 100.0%	71 100.0%	339 100.0%

表24: 経験年数

経験分布		修了者					合計
		長期	分割	対人	監視	環境	
5年未満	度数	4	13	4	6	8	35
	修了者の%	16.0%	72.2%	3.7%	5.2%	11.3%	10.4%
5-10年	度数	10	1	23	31	27	92
	修了者の%	40.0%	5.6%	21.1%	27.0%	38.0%	27.2%
11-20年	度数	9	3	21	52	21	106
	修了者の%	36.0%	16.7%	19.3%	45.2%	29.6%	31.4%
21年以上	度数	2	1	61	26	15	105
	修了者の%	8.0%	5.6%	56.0%	22.6%	21.1%	31.1%
合計	度数	25	18	109	115	71	338
	修了者の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 25. 回答者の所属

	研修受講時		現在	
	人数	%	人数	%
都道府県庁	1	4.2	1	4.2
保健所・福祉事務所・児童福祉施設	21	87.5	20	83.3
市町村保健センター	1	4.2	2	8.3
その他(市役所、食肉衛生検査所)	1	4.2	1	4.2
	24	100.0	24	100.0

表 26. 自治体の種類

	人数	%
都道府県	17	70.8
中核市	1	4.2
政令市	5	20.8
特別区	1	4.2
	24	100.0

表 27. 回答者の年齢と地方公共団体における実務経験年数

	平均値	標準偏差	最小値	最大値
年齢	37.33	6.47	29	54
実務経験年数	13.83	7.22	6	33

表 28. 回答者の学歴(複数回答可)

	人数	%
専門学校	2	8.3
短期大学	8	33.3
4年制大学	12	50.0
6年制大学	1	4.2
大学院修士課程	1	4.2
大学院博士課程	0	0.0
国立公衆衛生院専攻課程	0	0.0
国立公衆衛生院専門課程	0	0.0



表 29. 国立公衆衛生院(現国立保健医療科学院)の研修をどのようにして知ったか(複数回答)

	人数	%
受講経験者からきいた	23	95.8
研修派遣担当者からきいた	10	41.7
上司からきいた	6	25.0
国立公衆衛生院(現国立保健医療科学院)の職員からきいた	1	4.2
学校の先生からきいた	0	0.0
入学案内をみた	9	37.5
ホームページをみた	2	8.3
雑誌で読んだ	2	8.3
学会で知った	0	0.0

表 30. 研修形態について

	自分にとって受講しやすい研修形態		自分が受講したい(自らの希望)形態	
	人数	%	人数	%
国立保健医療科学院における研修	3	12.5	9	37.5
地域ブロック別に実施される出張研修	11	45.8	11	45.8
郵便を使った通信教育(スクーリングあり)	3	12.5	1	4.2
インターネットを使った遠隔教育(スクーリングあり)	3	12.5	2	8.3
無記入	4	16.7	1	4.2
合計	24	100.0	24	100.0

表 31. 1回の研修期間

	職場の都合上 受講しやすい 期間		家庭の都合上 受講しやすい 期間		職場の都合上 自分が受講したい 期間(自らの希望)		家庭の都合上 自分が受講したい 期間(自らの希望)	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1週間未満	12	50.0	12	50.0	9	37.5	11	45.8
1～2週間	2	8.3	3	12.5	3	12.5	3	12.5
2～4週間	10	41.7	6	25.0	8	33.3	6	25.0
1～2ヶ月			1	4.2	4	16.7	3	12.5
2～6ヶ月								
0.5～1年			1	4.2			1	4.2
1年以上								
合計	24	100.0	24	100.0	24	100.0	24	100.0

表 32. 地方自治体(都道府県や市町村)でおこなう保健医療福祉の研修全般について

	十分だと思う		ほぼ十分		やや不十分		不十分と思う		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
研修の数			5	20.8	13	54.2	6	25.0	24	100.0
受講機会			5	20.8	13	54.2	6	25.0	24	100.0
研修内容			6	25.0	11	45.8	7	29.2	24	100.0

表 33. 地方自治体(都道府県や市町村)でおこなう研修に対する満足度

	人数	%
①十分だと思う	1	4.2
不十分だと思う		
②自治体レベルの研修をもっと充実してほしい	5	20.8
③国レベルの研修で学びたい	6	25.0
④自治体レベルと国レベルの研修を両方受けたい	12	50.0
合計	24	100.0

表 34. 国立保健医療科学院の研修を受講する際に障害となるもの

(複数回答)	人数	%
自宅(職場)からの距離	18	75.0
期間	8	33.3
内容が合わない	2	8.3
職場の理解のなさ	0	0.0
職場の人手不足	17	70.8
家庭	8	33.3
その他「本庁から選ばれないと参加できない(旅費や順番)」	1	4.2

表 35. 国立保健医療科学院の研修で学んだり、得たいと思うもの

(複数回答)	人数	%
現場で即活用できる知識や技術	21	87.5
他職種とともに学ぶ機会	6	25.0
厚生行政の最新情報	18	75.0
受講生間の情報交換・ネットワークづくり	20	83.3
論文のまとめ方	8	33.3
フィールド実習	4	16.7
最先端で活躍している講師の講義	13	54.2
その他	0	0.0

表 36. 国立保健医療科学院の研修で学びたい公衆衛生従事者に求められる技術

(複数回答)	人数	%
地域アセスメント/分析	19	79.2
活動・事業計画	13	54.2
評価	18	75.0
スーパーヴィジョン/監査	5	20.8
コミュニケーション(健康教育、健康相談、プレゼンテーション、ネゴシエーション)	14	58.3
地域社会開発(ネットワーク、コーディネーション、合意形成の推進)	16	66.7
調査研究方法	15	62.5
人材育成	5	20.8
政策開発	9	37.5
地域管理	3	12.5
財政計画	5	20.8
その他	0	0.0

表 37. 国レベルでの研修に期待することとその理由

	期待事項	その理由
1	最新情報(国の動き)とそれを受けて地方ではどう展開すべきかというような内容のものを行ってほしいと思います。	食生活指針や日本人の栄養所要量など新しく改正された後だいぶ過ってから、その活用とというような物が出ましたが、新しい事はどんどん吸収し、展開するような計画して行きたいと思うので。
2	地方自治体での業務と国の施策との関連を確認する場。	日々の業務におわれ、目的が見失なわれがちなため。
3	① 最先端の話題と講師。 ② 県保健所栄養士の生き残る道。	①お金がかかる。②県では、栄養士として、やることがない、やりがいがない。
4	国の動向など新しい情報	
5	①豊富な講師陣。②他県の方との情報交換。	①遠方まで、なかなか来てもらえないので。②他県の情報をたくさん聞ける。
6	全国的ネットワーク作り	
7	①健康づくり、健康施策の最新動向を知ること。②情報交換	①日常業務に追われ、10年先を見込んでの事業ができないため、最新の動向を知ること、事業展開がはかりやすくなると思えるため。
8	健康増進法に関すること。	通達では、細かい点でよくわからない、又はどのように解釈すればよいのか、悩んでしまうから。
9	ヘルスプロモーションや、健康日本21について、他職種、研修にどう伝わっているのか？国における位置付けからどう説明していくのか。	具体的事例・手法を知り、法の位置付けとを含めて、説明していくための能力を上げていく必要を感じています。
10	国の政策についての考え方を直接聞きたい。	地方分権の時代と言われるが、今も国の指導にしたがって仕事をすることが多い。文字では伝えきれないことも多く、国の政策についての考え方など直接聞けて、理解し、地方にあったやり方を練ることも大切。
11	視野を広げること。	不足する知識や技術はもちろん、他の自治体の様子など、今のままでは思いつかないような、ちょっとしたきっかけがほしい。
12	健康づくりコーディネーターとして必要な知識、技術の習得できる研修と優れた講師陣の指導を受けたい。	市町村支援を行っていく上必要と考える。

13	①最新の話題に関して第1人者を講師とした研修。②研修資料(配布資料も含む)概要報告のホームページでの提供。③地方での開催。	③首都圏以外の職員が東京までいくのは予算的にも制限があるため。
14	最先端で活躍している講師からの講義	新しい情報、わかりやすい(理解しやすい)講義がきたいできる。
15	地方自治体レベルではどうにもならない。既存のデータの活用方法等。	国の情報と地方自治体の情報とのすり合わせをしていく必要性を感じるため。
16	先鋭の講師陣、情報	

表 38. 研修の報告会の実施概要

ID	回数	時間	対象	場所
1	2	30～60分	管理栄養士	行政栄養士研修会
	1		保健師	職場
2	1	15分	保健所栄養指導係長	保健所栄養指導係長会(15名)
3	1	20分	保健所栄養士	
4	3	30分	市町村・保健所栄養士	
5	1	60分	保健所栄養士	
6	1	60分	市町村・保健所栄養士	
7	1	45分	保健所栄養士	
	1	60分	保健所医師	
8	1	60分	県・市町村栄養士	
9	1	90分	保健所・保健センター栄養士	
10	1	60分	本庁・保健所栄養士	
	1	60分	本庁・保健所・市町村栄養士	
	1	60分	管内市町村	
11	1	30～90分	行政栄養士	
	1		市町村栄養士・保健師	
	1		保健所職員	
12	1	30分	本庁・保健所栄養士	業務研究会(37名)
13	1	30分	県内行政栄養士30名	
14	1	90分	行政栄養士	
15	1	90分	市町村・保健所栄養士	本庁主催の研修会
16	1	30分	県保健所栄養士	
	1	30分	管内栄養士	
17	1	120分	保健所職員	
	1	120分	管内関係者	
	1	120分	県栄養行政関係者	
	1	120分	市町村栄養士	
18	1	30分	県・市町村栄養士	
	1	30分	地域活動栄養士	
19	1	20分	市町村栄養士	
	1	20分	県の行政栄養士	栄養士会の研修
20	1	120分	保健所栄養士12名	
	1	60分	管内行政栄養士4名	

表 39. 報告会を行なったの自分自身の学びや気づき

1	報告会を行う事によって学んだ内容の復習や学んだ内容をいかに現職場で行って行けばよいのかがわかった。
2	研修で得た講義内容の伝達と他県の状況について共有できるようにすること。
3	自分が言いたいことと、県庁から支持された希望の内容がちがっていた。
4	コース内容の復習になった。研修を受けている時は理解しているように思っていたが、理解できていなかった部分も多く、テキストやメモを参考にした。研修の仲間が近くにいてくれたら、良いと思う。たくさんの方が研修を受ける機会があると良い。
5	他者に説明することで、自分自身も研修で学んだことのポイントが整理できた。
6	視点が高く遠くなった
7	研修報告の資料を作成、研修報告することで、栄養計画、作成実習
8	もう一度読み返し、自分のすべき事や方向性に改めて気付いた
9	講義については再度、整理して要点をまとめたが、実習の再現をしようと思ったが、うまく伝わらず難しかった。
10	1ヶ月かけて研修した内容を短時間で説明するのはむずかしい。どの内容も省けないものであったので。
11	今後の事業に対する評価、市町村栄養改善計画支援についても改めて研修で学んだことを活用していくこと。報告することで、自分自身の復習にもなったこと。
12	自分では、その場でわかったつもりでいても、他の人にわかるように伝えることは、とてもむずかしいです。実際、あまり伝わらなかったように思います。翌年の人の報告を聞いても同様に感じました。
13	研修内容を再確認し、充実した講義をふりかえる事ができた。
14	学んだものを深く理解することができた
15	復習と熱意の再燃
16	研修で学んだことを整理、復習できたことで、課題が見えてきた。
17	人に話すことによって、ばく然としていた内容が、よりはっきり理解できました。
18	特になし
19	評価についてまた計画、策定については自分のものになっていない
20	報告することによって、自分自身の研修の整理。現実の事業の流れとのくい違いを再認識し、研修の意味を再確認できた。

表 40. 研修後に現場での栄養士業務はどのように目にうつったか

×	1	めざす方向とはかなりかけはなれていた。
△	2	やらなければいけない事が、まだまだ沢山あるのに、出来ていないと思いました。また、栄養士は、少人数の職場が多い為、孤立して黙々と行いがちですが、もっと、他職種との連携をはかるべきだと思いました。
○	3	充分ではないが、保健所栄養士の役割を意識して業務をおこなっていると自分のことを思った。
×	4	あいかわらずやる気がない。地位が低い。積極性がない。
×	5	視野がせまいと思う。
△	6	地域診断に基づく業務ができていない。事業の目的を明確にするようになった。
△	7	仕事内容及び実績が外に見えていない→見せ方が下手
△	8	事業評価ができるような形での事業展開が十分にできていないのではないかと考えた。
×	9	厚生労働省の方や他県の状況を聞くにつけ、今のままではいけない、なんとかやらなくてはという、あせりばかりが強くなって研修を終えたが、現場にもどってみれば、いろいろなしがらみや、思惑の中で挫折感を感じる日々です。
△	10	今まで、やりっ放しの業務だったこと、評価までしっかり出来ていなかったことを反省しました。
△	11	やはり、立場によっては、企画しきれない場合や、計画策定に関わりが薄くなる。施策等をふまえた事業を意識していない事があると感じた。
○	12	与えられた仕事をこなすことに以前は頭を使っていましたが、小さなことにも目標を作って達成するようになり、仕事が広がったように思います。
△	13	日々業務に追われるばかりで事業に対する評価ができていない力不足を感じた。
×	14	ほとんどが市町村業務なので、研修内容と、とてもギャップがありました。
○	15	保健所栄養士の業務とは、どのようなあるべきか、明確になった。
△	16	評価、計画面における研修の実施が不十分
○	17	理想と現実のギャップが大きい
△	18	人事のようにとらえている人がかなりいたのは残念→伝達講習を行った時の感想。今までやってきたことを裏づける理論に欠ける。視野がせまい。前向きではない。
○	19	栄養士業務だけに満足することなく、保健・健康づくり・全体のコーディネートをしていくべきだと思いました。
△	20	通常業務が多すぎる。もっと事業の見直しを実施すべきと感じた。
×	21	政令市なので、日常業務は市町村業務といわれる部分にとられてしまい、研修内容を生かせない。
△	22	行政の都合で事業を行い、住民ニーズを無視している。望まれていることに目を向け、対応しようとしていない。



表 41. 資質向上のためにおこなっていること(複数回答)

地方自治体の研修に参加	19名	79.2%
栄養士の研修に参加	18名	75.0%
学会出席	7名	29.2%
勉強会に参加	10名	41.7%
上司や仲間に教わる	15名	62.5%
専門家の指導を受ける	8名	33.3%
専門書を読んで独学する	12名	50.0%
定期刊行物(栄養学雑誌、栄養日本、保健衛生ニュースなど)を読む	22名	91.7%
その他	0名	
何もしていない	0名	

表 42. 健康日本 21 地方計画の数値目標設定プロセスや中間評価についての意見

1	設定することで、スローガ的な気運はもり上がるが、必ずしも数値自体にこだわることはないと思う。
2	本市でも平成17年度の中間評価に向けて動きつつありますが、まだ、なかなか目標値までは行っていないので中間評価後、又、反省点をふまえて実施していこうと考えております。
3	必要だとかんじていますが、直接かかわっていません。
4	一部の人々が作っている。目標が高いわりに、努力をしていないので結果が見えている(特にたばこ)。目標を作る人と、実際に行う人がちがうので、むずかしい。
5	目標を設定するため、地域分析のよい機会となっている、地域の現状を知ることができた。目標についての中間評価は必要だと思う。これに基づき、地域との比較をしていきたい。
6	県庁と保健所とで常に情報の共有を行うことが重要。
7	机上の計画
8	地方計画は現在策定中であり、直接的に関わっていない。また、地方計画を策定し、それをもとに、健康づくりをすすめていくという意志のようなものは余り感じられないでいる。中間評価できるか疑問。
9	追加調査の予算がとれなかったため既存の健診結果より、数値目標を設定しようとしたが、結局数値目標の設定にいたらず、数値目標なしの地方計画となった。数値目標の設定ではなく、それに至るプロセスが大切なのだと言ったプロジェクトに参加したが、他部局との連携もできず、不満の残る地方計画の策定であった。中間評価については、方向性を示していない現状である。
10	数値目標が、いまいち達成出来るのだろうか…と、疑問を持っている部分もあり、中間評価で見直しをするんでしょうが、どのように、改定するのか、注目しています。
11	せっかくたてた計画を住民に知らせることすら難しい状況を感じており、中間評価は、いかに関与する住民が多いかどうかで差が出るのではないかと。
12	目標設定に無理がなかったか、ハードルが少し高かったのではと感じている。
13	策定ばかり先ばりし、達成不可能な数値が多い。希望的な数値を何となく、入れてしまったと反省している。策定してほっとしたら、中間評価が近づいており、気付けば、何もしていない目標もあり、どうなるのか、不安。
14	公衆衛生の新しい流れを提唱していると思われるが、科学的根拠に基づいての設定だけでなく取組みに関する具体的な目標も必要と考える。中間評価は、どのようにされるのだろうか？
15	本市では目標値は設定されていません。市として目標値の設定と評価の方針はないので、この先何を、どうしていけばよいのでしょうか？
16	地方計画形成プロセスが、事務作業的である。
17	本気で今後とりくまなければならないこと
18	数値を出すと数値だけが一人歩きし、プロセスや評価方法が問われないまま過ぎてしまいそうで怖い。
19	形をつくることを重視したためか、プロセスがお粗末。国の計画をまねただけで独自性がないところが多いのでは。目標に無理がある。中間評価は、まだやっていない。
20	数値目標や、評価のやり方を設定したことで、はっきりとした評価ができるようになったと思う。
21	数値目標が多すぎて、果たして、達成できるのか不安(数値目標が目的でないと言われても)
22	数値として出ることには事業の方向の確認ができ、効果的かわかるし、修正できる。

図 1. 研修内容を何らかの形(内容・方法)で地域展開することができたか(1名1カード)

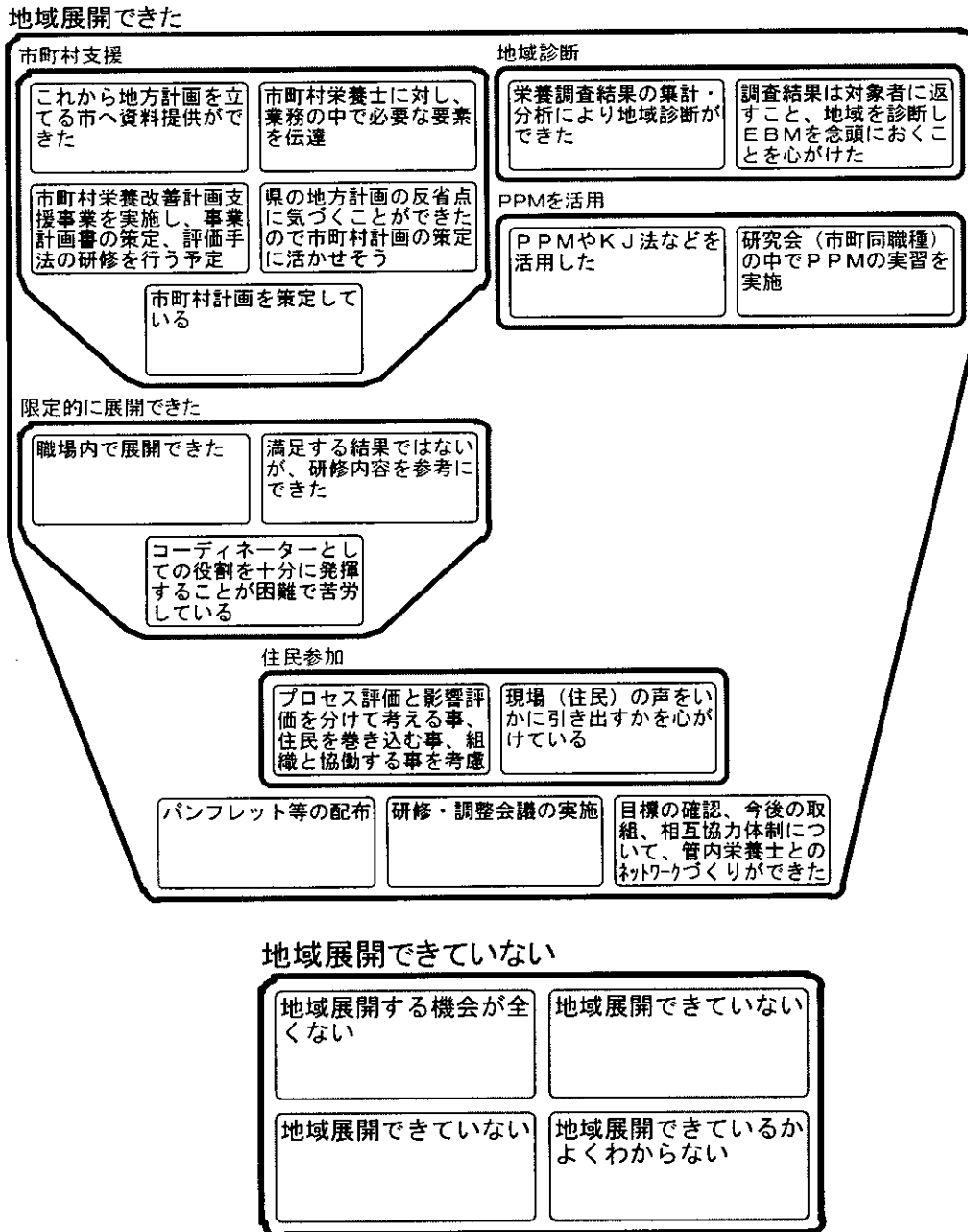


図 2. 少しでもうまく地域展開できたその理由はどんなことだと思うか(1名1カード)

うまく地域展開できた理由

<p>研修後の勉強会</p> <p>研修後、市内の行政栄養士で勉強会をもち、自分たちに何ができるかを検討した</p> <p>職種間で学習する機会をもつことができた</p>		<p>周囲の協力</p> <p>周りの人の協力</p> <p>よい人間関係ができたことで地域展開がしやすくなった</p>	
<p>研修の受講時期がよかった</p> <p>研修を受講した時期がよかった。研修内容を活かす場面に恵まれた</p> <p>県計画を策定した後で研修に参加したので、自分に不足していた点がよくわかった</p> <p>最初から共に作成することができた</p>		<p>意識の変化</p> <p>研修内容を常に意識し自分のよりどころとするように努めてきたため</p> <p>研修で「いろんな立場の人から話をきく」というのを学び、実行するよう努力したので</p> <p>自分の意識が研修によって変わったことを伝えられた点</p>	
<p>視野の拡大</p> <p>視野が広がり、重点項目が絞れた</p> <p>研修で評価方法やアプローチの仕方を学んだので、そこまで考えた事業展開ができる</p>			

その他

<p>地域展開できていない</p> <p>うまく地域展開できていない</p> <p>地域展開できていないので…</p>	
<p>よくわからない</p>	<p>なし</p>